

津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 4. 19 N05

新しい土を加えながら伝統を守る…

春・夏の高校野球では甲子園球場を舞台に期間中、地方大会を勝ち抜いてきたチームが連日、熱戦を繰り広げます。試合終了後、負けたチームがベンチ前の土を両手でかき集め、シューズ袋などに入れているシーンをよく見かけます。この球場を陰で支えている



る集団の一つに阪神園芸があります。阪神甲子園球場では雨が上がる(写真は NUMBER WEBより)とグラウンドを覆っていたシートをはがし、ものの数十分で砂を入れ、試合ができるように整えています。まさに職人の技です。甲子園球場の土は、雨などで流れた分を補うなど日々の細やかな整備とともに年1回深く掘り起こす天地返しを行いながら99年前の開場当時の野球場にふさわしい土を守っていると言われています。どこの球場にも球場を守るためのグランドキーパーがいて、プロとしての誇りをもって仕事をしているでしょう。しかし、阪神園芸のように、新しいものを加えながらも先輩たちが試行錯誤しながら作り上げてきた伝統をしっかりと継承しているところは少ないのではないでしょうか。職人さんたちのプロ意識に深く感動しました。

南が丘小学校は開校からの年数が比較的新しいと思っておりましたが、いつの間にか今年で創立32年が経ち、その間、11名の学校長が歴史と伝統を築きあげてきました。校長室の壁には私のお世話になった学校長3名を含め、11名が私の右上から見守ってくれます。32年前と比べ時代は大きく変わり、求められている価値観も実に多様化してきています。「前年通り」「これまで通り」といかないことも多いですが、南ヶ丘小が大切にしてきたものを受け継ぎながらも甲子園球場の土のように掘り起こし、整えていけたらと思います。

6年生に感動！

本校では入学してきたばかりの1年生の児童が安心してすごせるように朝の出迎えと給食の後片付けなどを6年生の児童が伝統的に関わってくれています。今日、1年生の教室に来てくれた6年生の児童の様子を見ていたら、視線を落とし、まなざしも声掛けも本当に優しく、自然で驚かされました。1年生の児童も安心した表情をしていたのがとても印象的でした。「1年生はできないから教えてあげる」ではなく、6年生の自然な姿に学ばされました！

